

令和5年度

# 少年の主張 全道大会 発表作品集



公益財団法人北海道青少年育成協会  
北 海 道  
独立行政法人国立青少年教育振興機構

# 目次

## はじめに

公益財団法人北海道青少年育成協会会長 竹谷 千里 …………… 1

## 令和5年度「少年の主張」全道大会 PHOTO

…………… 2

## 講 評

審査員長 山田 誠一（北海道中学校長会情報部副部長／安平町立早来学園校長） …………… 4

## 作 品 集

### 【最優秀賞】

恨みを愛へ 三浦かな （下川町立下川中学校3年） …………… 6

### 【優秀賞】

自分の心を大切にする  
～新自己中のすゝめ～ 中川 心結（札幌市立宮の丘中学校2年） …………… 7  
人との関わり 内崎いおり（岩見沢市立明成中学校3年） …………… 8  
当たり前 笠原 桜空（厚真町立厚南中学校3年） …………… 9

### 【奨励賞】（地域順）

読書を「楽しむ」ことの大切さ 矢部 優実（千歳市立千歳中学校3年） …………… 10  
他人と自分 久保田翔子（蘭越町立蘭越中学校3年） …………… 11  
部活で学ぶのは技術がすべてじゃない 大柳 茉耶（浦河町立浦河第一中学校3年） …………… 12  
私に必要な勉強 平尾 萌花（北斗市立浜分中学校3年） …………… 13  
「できること」 水上 桜佑（乙部町立乙部中学校3年） …………… 14  
認め合いの輪を広げたい 伊藤 日和（遠別町立遠別中学校3年） …………… 15  
自分の仕事に誇りをもって 飯田 冴（利尻町立利尻中学校3年） …………… 16  
「声で伝える」ということ 岩山 心咲（斜里町立知床ウトロ学校9年） …………… 17  
ジェンダーレスへの一歩 山野 紗璃（中札内村立中札内中学校2年） …………… 18  
負の連鎖を断ち切る 嵯城 蓮人（釧路市立幣舞中学校3年） …………… 19  
個性超える子、成長ある 唐崎 愛華（標津町立標津中学校3年） …………… 20  
曾祖父母への感謝 坂 夢叶（札幌市立平岸中学校2年） …………… 21

## 参 考

令和5年度「第45回少年の主張全国大会～わたしの主張2023」～内閣総理大臣賞受賞作品 …………… 22

## 資 料

大会のねらい／大会のあらまし／審査員 …………… 23  
令和5年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会開催状況 …………… 24  
令和5年度「少年の主張」実施要領 …………… 25

## 「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並びに優秀賞受賞者名簿

…………… 27

# はじめに

令和5年度「少年の主張」全道大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度以来4年振りの実開催となり、全道各地から多くの方々にご来場いただき開催しました。ここに、こうして作品集を発行し、皆様にご覧いただけることを大変うれしく思います。

この大会は、人格を形成する上で重要な時期にあたる中学生が、日常生活を送る中で感じていることや社会に向けての意見、未来への希望などを中学生自身の言葉でまとめ、それを広く発表する機会です。これにより、同世代の中学生に周囲の人々や社会との関わりについて、より深く考えていただき、社会の一員として自覚していただく契機とすること、また、道民の皆様が中学生の考え方、感じ方、意見等に直接触れることにより、青少年育成への理解と関心を深めていただくことを目的として開催しています。

今、少子高齢化、国際化、情報化等が急速に進展する中、青少年を取り巻く環境も大きく変化しています。そのような中で、彼らの主張に真摯に耳を傾けることは、私たち大人の責任でもあると考えています。

これからの北海道を担う輝かしい存在である青少年の皆さんには、自分たちの意見を発表することを通じて、広い視野と柔軟な発想を育むこと、論理的に物事を考えること、自分の主張を他の人に正しく伝える力などを身につけて欲しいと願っています。

今年は、道内287校から27,197名の方が応募され、地区大会を経て、16名の方が全道大会に進みました。全道大会で最優秀賞を受賞した 三浦かなさんは、北海道・東北ブロック大会を経て、全国大会において見事「審査委員会委員長賞」を受賞されました。

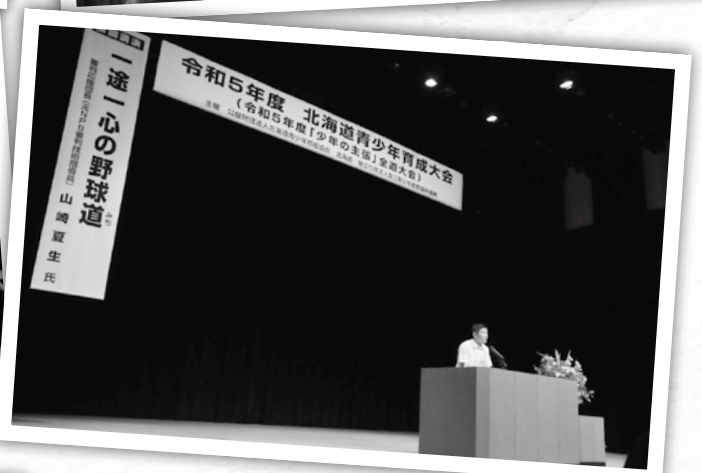
この作品集は、その16名の皆さんの生き生きとした主張を掲載したものです。

この作品集を一人でも多くの方に読んでいただくことを願いつつ、本大会を開催するに当たり、ご協力いただいた関係の皆様にご心からお礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

令和5年12月  
公益財団法人北海道青少年育成協会  
会 長 竹 谷 千 里



# 令和5年度「少年の主張」全道大会 PHOTO





## 全体講評

会同形式による「少年の主張」全道大会はコロナ禍前の令和元年度以来の開催となります。全道各地から選ばれた次世代のオピニオンリーダーによる主張を直接聴き取ることができ、参加者、及び、関係の皆様はもちろんのこと、審査を務めさせていただいた私も感極まるものがあります。

16人の参加者の皆さんの本日までの努力を大いに称えたいと思います。一番たいへんだったことは主張内容をまとめることだったと想像します。人前で自分の心の中のことを話すという行為はなかなか勇気のいることです。内容を作成するにあたり、自分の今までの生き方との整合性を幾度となく振り返り、「自分らしさのブラッシュアップ」の精度を確認したはずです。この行為は、何らかの人生の節目、例えば進学や就職といった転機、もしくは学校祭の発表等において、自分という個性を確立し、他者との関係性を構築する際に自然と行われるものです。今回の主張発表はそういった機会の中でも最高レベルの場でありましたので、内容の構成、先生や保護者からの御指導、そして本日の発表と一連のプロセスを経て、皆さんは確実に大きな成長をしたものと推察いたします。

心理学者アドラーは「全ての悩みの原因は人間関係である」と述べています。今年度の皆さんの発表においても、人間関係を中心に据えた人、もしくは関連する形で触れている人が多数います。昨今は多様性を受け入れる社会の在り方について論じられるようになりました。そもそも人は同じものを見ても、その理解、解釈そのものが違います。有名なところでは、若い女性と年老いた女性の二通りに見える絵画であったり、視覚情報がないはずの盲点の画像を脳が補っていたりする等は皆さんも御存知のことと思います。1次情報の段階で解釈が違う原体験をベースに人は知識を構成していきます。そして知識と知識の間に複雑なネットワークを構築し、新たな事象を解釈する際の既有知識として稼働させます。こうして何年もかけて構成されていく知識構造は人それぞれであり、新たな概念、例えばSDGsの概念を理解しようとした際に感じ方、危機意識、自分事の度合いといった全てにおいて違いが存在します。多様性を認め合う社会においては性、人種といった表層

的なものに加えてこの「考え方」という深層的なものを含みます。人間関係をよりよくするためには、「考え方」の違いを互いに受け入れ、尊重し合う必要があることを今回の複数の発表者も述べており、中学生ながらこの領域に到達していることは頼もしい限りです。

ここまで人間関係の仕組みと構築について述べてきましたが、難しいことだけではありません。個の違いを認め合い、そして分かり合おうとすることで、相互に刺激を受け、心も認識も自分という個性も大きく望ましい方向に変化します。本日の参加者の皆さんは互いの発表を聞いている最中に、自分の発表内容と隣接している、思考プロセスが似ている、キーワードの使い方が同じだ、あの人はそう考えるのだといった発見があったはずですから、お互いに声を掛け合い、「あなたの発表に興味をもちました」「ここをもう少し教えて下さい」と意見交流を行うことを勧めます。オピニオンリーダー個人の資質向上のみならず、仲間との連携の先には我が国の明るい地平が見える思いです。ぜひ、参加者間の交流について引率の先生、各校の校長先生方の御検討を御願います。

審査については、論旨を5観点、論調3観点の計8観点を5人の審査員で審査しました。皆さんの真摯な思いに応えるべく、我々審査員も原稿を何度も読み込み、発表者への尊敬の念を抱きながら、内容の理解に努めてきました。最優秀賞を受賞された、下川町立下川中学校の三浦さんの主張は、現代社会における未着手領域での当事者としての苦しい経験を基に、社会を構成する一人一人が愛と奉仕の心をもち行動することで、皆が穏やかに生きていける未来を作りたいという強い決意が伝わる素晴らしい内容でした。また、優秀賞の3人の皆さんにつきましても、最優秀賞とは僅差であり、奨励賞になった12人の皆さんも立派な主張でした。

結びになりますが、お子様の大会出場を温かく後押ししていただいた保護者の皆様、御指導を頂きました先生方、各学校単位において参加していただいた中学生の皆さん、大会運営に携わっていただいた多くの関係者の皆様の益々の御活躍を祈念し、全体講評とさせていただきます。

## 1 飯田 冴さん 「自分の仕事に誇りをもって」

漁師という厳しい仕事を続けている祖父の姿、及び、進路学習で出会った大人たちの姿から、仕事の本質的な意味について思考を重ねた経緯が述べられています。中学生の時期における「社会の中の自分を見出す」ための努力が職業観を形成することを通して丁寧に行われています。「やりがい」と「誇り」を得るために必要なこと、加えて中学生の今、何をすべきかまでしっかりを見据えた力強い主張です。

## 2 大柳 茉耶さん 「部活で学ぶのは技術がすべてじゃない」

「挨拶」と「礼儀」の大切さについて、3年間の部活動での実体験を基に述べています。人間形成の一環であるはずの部活動、学校教育が目への勝利や結果に左右される実態への痛烈な批判は大人の側の反省を促しています。部活における「中学生ならではのしょうもないけんか」は人間関係を学ぶ場であるとの主張は、発達段階に応じたコミュニケーションスキルの取得の必要性からも重要な視点です。

## 3 笠原 桜空さん 「当たり前」

胆振東部地震で被災した経験から「当たり前」の日常生活は多くの人々の協力で維持されていることへの感謝が述べられています。被災時の生活において気付いたことを多くの人に伝えたいという思いと、今度は自分が助ける側、もしくは「当たり前」を維持することを通して社会へ貢献したいという強い意志が伝わってきます。電気も水も止まった状況下において、人への感謝の念をもち、思いを膨らませてきたことは賞賛に値します。

## 4 坂 夢叶さん 「曾祖母への感謝」

従軍を経験した曾祖父の存在を知る経緯において、自己の存在さえ危うかったことに気付いたことから、戦争の恐ろしさ、平和を維持することの大切さを深いレベルで論じています。時が経過することで、当時の思いや今に続く掛け替えない日常のありがたさを感じ入る心が継承されるにくなることを憂慮し、自ら「語り継ぐ」活動を決意した今回の主張からは平和を愛する心、日常の生活への感謝の気持ち伝わってきます。

## 5 唐崎 愛華さん 「個性超える子、成長ある」

日常の出来事から、障がいを持つ人への支援が「本人のできることを減らしていた」という衝撃の事実に関心し、困り感に基づいた支援の在り方を社会全体へ呼びかける主張です。障がいではできないことが一つ二つ多いだけという発想を基に障がい者と健常者という現状の枠組みを取り払う提案も新鮮ですし、障がいそのものを「伸びしろ」ととらえる考え方がこれからの共生社会を構成していく世代から発せられたのは頼もしい限りです。

## 6 三浦 かなさん 「恨みを愛へ」

事故に遭った家族の一人として、社会への疑問を抱き、周囲からの理解を得られなかった苦しみの極地からの回復の過程における心の大きな変化は聞き手の心を揺さぶります。「これ以上苦しむ人がいなくなる」ために様々な社会貢献活動を行うことで社会とのつながりを実感し、同時に徐々に心の傷は癒やされていったことが想像されます。地域の交通安全も社会を構成する一人一人が愛をもって支え続けてきたことへの気付きも秀逸です。

## 7 水上 桜佑さん 「『できること』」

食品ロス問題の解決に向けて「自分の食べられる量の正確な把握」と「賞味期限への意識を高める」という2点の「できること」についての提案主張です。1年生時には給食を残さず食べることへの疑問をもちつつも、食品ロスの実態や構造を知ること、生産者、調理師、一緒に食べる仲間の関係性を世界規模の飢餓問題に広げ、自分の能力の生かし方にまで言及する様は、3年間の経験が大きく視野を広げた成果と言えます。

## 8 矢部 優実さん 「読書を『楽しむ』ことの大切さ」

豊かな読書が読解力の向上に役立つことを各種調査や歴史的事実を根拠に論理的に述べています。その読書そのものを習慣化するためには、入り口の段階における「楽しさ」が重要であることを論語や自身の幼少期の経験における「本からの感動」を基に述べる流れは説得力があります。また、読解力向上を切り口に、後段は読書が人生を一層豊かにする活動であると述べる論旨展開は正に読解力を有する人物の主張です。

## 9 中川 心結さん 「自分の心を大切にす

～新自己中のすゝめ～

自己主張ができずに苦しんでいた幼少期、大人たちからかけられた言葉をきっかけに「自分の心を大切にしたい」という境地に行き着いた経験を基に自己の判断基準をしっかりともつことの大切さ、多様性を受け入れる社会の実現に向けての力強い主張です。自分と他人との関係の在り方について、福沢諭吉の考えを引きつつも「自分を認め、その上で他者との違いも受け入れる」という高次の考えは中学生の域を超えています。

## 10 伊藤 日和さん 「認め合いの輪を広げたい」

LGBTQ等の多様性を認め合う概念が一般化しつつある現在においても、「普通ではない」という表現により傷ついている人々が存在する矛盾への強い警鐘が述べられています。自分と異なる考えに出会ったとき、相手の考えを尊重し、理解することが自分の生き方をより豊かなものにし、そのことを通して「認め合いの輪を広げ」、社会問題の解決にもつなげたいという発想は傾聴に値します。

## 11 嵯峨 蓮人さん 「負の連鎖を断ち切る」

児童虐待の増加に手をこまねいている現代社会への厳しい主張です。保護者の責任を問いつつも、相談機関や一時預かり施設、さらには社会的なサポート体制の創設を提案するなどの建設的な論旨が展開されます。題の「連鎖を断ち切る」の「連鎖」が指すことについて明言はしていませんが意味するところは明白であり、個人、社会、そして中学生ができることを的確に論じており、多くの人々へそれぞれの立場での行動を促す内容です。

## 12 久保田 翔子さん 「他人と自分」

3年間の部活動で学んだ反省を含む様々なことを素直に披露し、自校の後輩のみならず多くの人々に伝えたいという愛に満ちあふれた主張です。挨拶、怪我、後輩への声かけといったこの学校にもある部活動の日常に思い悩み、丁寧な思考を重ねた結論は心に響きます。反省を糧に自己の心の軸と他者との関係についての明るい未来像をさわやかに論じる中に、スポーツに関わる人の強さと人間味が感じられます。

## 13 平尾 萌花さん 「私に必要な勉強」

社会性を伸ばすための努力の経緯と心の動きが丁寧に述べられています。自ら考え、行動することを目標に「他者と積極的に関わり、協調性を意識する」という具体策は同じ悩みを有する人にとってたいへん参考になる先行実践です。また、結果として得られた手応え感には自信と更なる成長への意欲につながり、「紙の勉強」と「紙ではない勉強」の両方に力を入れていきたいという前向きな結論を出せたことも立派です。

## 14 山野 紗璃さん 「ジェンダーレスへの一歩」

新たな社会の実現の阻害要因として、スローガンの掲示のみで施策が実行に移されないことを指摘しています。また、自分の学校における女性活躍の状況や地元自治体の議論の様相、各種調査、自分の家族の実態を丁寧に引き、ジェンダーレス社会実現のために必要な共通理解には時間がかかること、人の意見を聞くだけではなく「自ら考えること」の重要性を述べる展開は説得力があります。

## 15 内崎 いおりさん 「人との関わり」

人間関係の難しさに悩み、考え、「自分を変えたい」という結論に至る経緯を赤裸々に述べる流れは多くの中学生の共感を呼ぶ展開です。自分の意見のみを主張するのではなく、相手の考えを傾聴し「妥協点を見付ける」という具体策は分かりやすく、また、実施することで得られた本当の意味での意見交換ができたという手応えは、自分が中心の世界観から社会の一員としての認識が形成される過程であり、今後の大きな成長が期待されます。

## 16 岩山 心咲さん 「『声で伝える』ということ」

SNSに代表される文字情報によるコミュニケーションに比べ、声には「感情」を載せることによる円滑、且つ、正確なやりとりが可能となることを丁寧に論述しています。また、他者と意見交換を行う必要性について、言葉のやりとりを通して「考えを明確化できる」点にさらりと触れたり、相手に自分の考えを伝える際には「文の構成」が重要であることを述べたりするなど、コミュニケーション全般への造詣の深さがうかがわれます。



## 恨みを愛へ

下川町立下川中学校3年

みうら  
三浦 かなな

「み・みず!水!」

まただ。また妹がうなされている。5年前、末の妹が保育園の送迎バスに置き去りにされた。何人もの大人が確認を怠り、妹はバスの中でだんだんと意識を失っていった。偶然早く迎えに来た母が気づいたことで、発見された。新聞に掲載されたのは、「命に別条はない」の一文。しかし、別条がないというのはただ生きているというだけで、今までの日常が戻ってくるわけではなかった。

あの日から、私たちの生活は一変した。妹は事故のトラウマで夜中に泣き叫ぶようになった。ひとりでトイレに行けなくなった。村の安全対策に疑問を持ち、私たちは隣町に引っ越すことになった。家族みんなが不安定になり、母から笑顔が消えた。妹は引っ越しのストレスで脱毛症になった。こうなったのは事故のせいだ、不注意な大人のせいだと、私は毎日事故を恨んだ。

当時私はまだ小学生だったが、何とかしたいと強く願った。苦しむ子どもが出ないように、壁新聞を作ったり作文を書いたりして社会に訴えかけた。しかし、当事者になるまでみんな他人事で、誰も耳を傾けてはくれなかった。

そんな時、私たちに転機が訪れた。息子さんを保育中の川の事故で亡くされた方と知り合ったのだ。ライフジャケットさえ着ていれば守れた命だった。その人は、二度と同じような事故が起らないように、ライフジャケット着用を呼びかける活動をしている。

会う前は、彼女も私と同じように社会を、事故を恨んでいると思っていた。しかし実際に会った彼女は、おだやかで、笑顔がすてきな方だった。

失礼ながら私は「あなたは事故を恨んでいないのですか?」と聞いた。すると彼女はこう言った。

「もちろん、事故のことは憎い。だけど、その

恨む気持ちは置いておいて子どもの命を守ることを第一に活動している。」

笑顔を忘れずに、活動を自分自身が楽しむ。そうすると、自然と共感してくれる仲間が増えていくという。

私はその姿に心動かされた。確かに、事故を恨んでいることを訴えても、そこからは何も生まれない。関係者への恨みが増すだけで誰もハッピーにはならない。

私達は、それまで抱いてきた事故や社会への恨みを、社会への愛に変えることにした。これ以上苦しむ人がいなくなることが、私達の最大の願いであるということに気づいたからだ。

それから私達は、社会を巻き込んで活動していった。大好きな野生生物の命を守るため、この4年間家族で毎月ゴミを拾っている。水の事故を無くすため、2年かけてライフジャケットレンタルステーションを設置した。髪がない辛さを知り、妹達と、3回目のヘアードネーションに挑戦中だ。目の前にはいない誰かと繋がっている気がする。こうやって小さいけれど、少しずつ楽しみながら社会を変えていこうと今も活動している。

私が住む下川町は昔、小学生が自転車事故で亡くなったことをきっかけにヘルメット着用を推進している。何十年も前の死が、そのまわりの人々の活動が、今の私たちの命を守っている。私たちは見ず知らずの誰かの愛に支えられて生きているのだ。

意識していなくても、私たちみんなが社会と繋がって社会を作っている。安全な社会を作っていくのは他でもない私たちひとりひとりだ。これからも、立ち上がれない程の痛みや悲しみを経験することがあるかもしれない。

私は、そんな時こそ恨みに心が占拠されないようにしたい。

過去を恨むのではなく周りへの愛に変えることで、未来はきっと変えられる。





優秀賞

(北海道教育委員会教育長賞)

## 自分の心を大切にすゝめ ~新自己中のすゝめ~

札幌市立宮の丘中学校2年

なかがわ みゆ  
中川 心結

「自分の気持ちに正直になったら今より少し楽じゃないかな。」これは、人間関係に悩んでいた時の、小学校の先生の言葉だ。私が自分の心について考えるきっかけとなった転機でもある。楽しみにしていた、小学校のお祭り、あれは二年生の時だった。仲の良い友達と「バザーにいこう」「体育館で遊ぼう」と盛り上がっていた。いよいよ当日。苦手と感じていた子が一緒に回ろうと私のところに来た。その子は自分の気持ちをストレートに押し付けてくる子だった。私は断れず、その子の行きたいところに行き、したいことをして一日が過ぎた。楽しみしていたお祭りは終わった。悲しかった。当時の私は、他人の考えを優先し自分を出せずにいた。はたから見れば「優しい良い子」。私は息苦しかった。そんな時、母がかけてくれた言葉がある。「あまり無理しすぎなくていいんだよ。まずは自分を大切に。」肩の力が抜けたことを覚えている。「無理して人に優しくしすぎなくていいんだ。」私はそこから少しずつ変わっていった。「自己中」という言葉がある。「自己中心的の略で、物事を自分中心に考える事」辞書にはこうある。これは良くないことだ。お祭りの記憶は「自己中」の記憶として私に刻まれている。そこで私は、新しい自己中の形として「新自己中」を提案したい。ここでいう自己中は、「我儘」という意味ではない。人の気持ちは大切だが、まずは自分の心を大切にしようという考えだ。私の考える「新自己中」は、他人の気持ちを尊重したうえで、自分の意見を貫くことだ。一方「自己中」は、「我儘」で自分の意見を押し付けて、他人をコントロールしようとする事だ。この違いはとても大きい。世の中には、「こうあるべきだ」という「押し付け」があふれている。男だから泣くな。女だから優しくしろ。これだってイメージの押し付けだ。性別なんて関係ない。個性の話だ。皆自由で当たり前じゃないか。「自

由と我儘の界は、他人の妨げをなすとなさざるとの間にあり。」これは、福沢諭吉の学問のすゝめにある名言だ。幕末から明治、激動の時代に生きた諭吉のこの言葉に答えはある。人は、誰しも自由でいたいと思うものだ。しかし、自由を追い求めると、他者の自由と衝突する時もある。それでも、無理やり押し通そうとするのは我儘になる。「界」を意識した上での自由。これは、現代を生きる私達にとっても共通のルールだ。今、私達は、先の見えない混沌とした時代を生きている。互いの違いを認め合えないことによる争いが絶えないいま、考え方の違いや自分とは異質であるものを拒み、他者との溝が深まってしまった時、どうすればよいだろう？多様性の中、少しでも平和な社会に近づくために、何が出来るだろう？ここで重要になるのが、「自分の中に軸を持つ」ということだ。自分は どうありたいのか、自分の中の大切な、譲れないものは何かの判断基準を持つことが重要だ。自分を認め、その上で他者との違いを受け入れる。異なるということを受け入れ、理解するのが大切であり、多様性を認めるということだ。互いの存在を否定せず、認め合おう。自分と違う価値観の人がいたとしても「自分のほうが正しい」と押し付けない。一人一人の個性は多様で当たり前。たとえ分かり合えなくても「攻撃」や「排除」をする必要なんてない。自己中でいいんだ！自分の心を認めて初めて他者を思いやり認め合うことが出来るから。自己中でいいんだ！自分を大切に初めて余裕が生まれ、人に優しくすることが出来るから。自己中の理想の形。それは、「多様性を認め合える社会」だ。自分軸を胸に、自他共に尊重し合える世の中を目指すための第一歩を踏み出そう。「新自己中のすゝめ」これは、自他共に幸せになるための「多様性社会」への道である。



## 人との関わり

岩見沢市立明成中学校3年

うちぎき

内崎 いおり

私は今まで、人との関わりで、失敗ばかりしてきました。友達と分かり合えなかったり、部活の後輩と対立してしまったり……。しかし、たくさんの失敗を繰り返し、乗り越えた先には、自分が気づけたことがありました。

それは、人と関わる時の失敗の発端は全て自分が招いていた、ということです。今まで何度も人間関係について悩んできました。友達と喧嘩をし、仲直りしてはまたすぐ喧嘩。「何故すぐこうになってしまうのだろう」いつもそう思っていました。でも、その度に「単なるクラスメイトだし」「別にお互い様じゃん」そんなふうに思ってやり過ごしてきました。しかし、今思うと原因のほとんどは、自分自身にあったと思います。

そう思うようになったきっかけは、中学一年生の時です。当時の私は自己中心的で、周りを見ない人間でした。ですが、そんな私と仲良くしてくれていたAさんという親友がいました。

ある朝、AさんとLINEをしていると、急に返信が冷たくなりました。学校へ行っても冷たいし、何故なのかわからないまま夜になり、AさんからLINEが送られてきました。内容は、今までAさんが私に対し我慢してきたことです。ですが、あの時の私は、自分の過ちに目を向けず、相手への不満ばかり。結局、Aさんに謝らないまま、関係は崩れました。

その後、Aさんとは疎遠になり、教室で一人になった時、私は、心を開ける友達の大切さに気づきました。そして、今までの自分の行動を振り返り、自分の何かを変えなければダメなのかもしれない。そう思うようになりました。自分のことを振り返れば振り返るほど後悔や申し訳なさで、胸が痛くなりました。言葉では言い表せない、どこかにぽっかり穴が開いたような、そんな気持ちでした。相手を大切に思う気持ち

を、もっと大事にしていたら、こんなことにはならなかったかもしれません。

また、もう一つの失敗は相手との大事な話を、LINEで終わらせてしまったことです。Aさんと直接会い、顔を合わせるべきでした。なぜなら、文字だけの会話より、互いの思いが伝わりやすいからです。Aさんの顔を見たら、楽しかったことを思い出し、相手への不満なんて、吹き飛んだかもしれません。素直に謝ることもできたかもしれません。

しかし、後悔ばかりではありません。失敗から、学んだこともあります。それは、協調性の大切さです。自分と異なる人との関わりは難しいです。ですが、自分の意見だけを言うのではなく、相手の意見にも耳を傾け、互いが納得する「妥協点」を見つけることが大切だと思います。妥協という言葉には、「互いの考えを理解し、一致点を見いだす」という意味があります。クラスや班の話し合いの場面、私は今でも、少し自分の意見を強く言う時があります。そんな時は、周りの人の思いを大切に接するよう、心がけています。自分の主張ばかりしていた時は、周りのみんなが私に対し、気を遣い、本音で話をしなかったように思います。でも、相手の思いを大切にするようになってから、少しずつみんなが素で関わってくれるようになってきました。

一方で、私が学んだことが、中学という狭い世界だけでなく、高校や大学、社会に出た時に通用するのかは、正直、不安です。ですが、もしまた失敗しても、そこから逃げず、しっかりと目を向け、反省したいです。そして、正しいことや新しいことを学んでいきたいと思いません。人との関わりを大切にしながら。



## 当たり前

厚真町立厚南中学校3年

かさはら さくら  
笠原 桜空

「そんなの当たり前のことじゃん。」その言葉を耳にした時、ふと思いました。当たり前って何だろう？ [当たり前] という言葉を辞書で引くと [誰がどう考えてもそうあるべきだと思う事。当然な事] という風に出てきます。では、私達にとって [当たり前] のこととは何でしょう？ 生きている事でしょうか。水を飲んでいる事でしょうか。電気がある暮らしをしていることでしょうか。考えてみれば、きりがいいほど出てきます。私もあの時までは、これらのことは当たり前だと思っていました。[あの時]、それは二〇一八年九月六日。この日に起こった胆振東部地震が私の考えを一変させたのです。

二〇一八年九月六日三時七分五九秒。ドンという突き上げるような大きな縦揺れ。続いて激しい横揺れが襲う。全く身動きが取れない。このまま続けば、世界がぐちゃぐちゃになってしまう！と、同時に緊急地震速報がけたたましく響き渡る！ 部屋の本棚が倒れ、全ての本が、全ての物が床に投げ出される。何が起きているの？ どうしよう…どうしよう！ いったん揺れが収まった。お父さん、お母さん！ 怖い！…居間では倒れたテレビ、落ちて壊れた食器、足の踏み場のない床。ほんの一瞬で変わってしまった家の中…。

今まで経験したことのない恐怖の瞬間でした。その後、小さな余震でも、恐怖がよみがえり、おびえて過ごす日々が続きました。それに拍車をかけたのが、水が止まり、電気が付かなくなりました。飲料水のペットボトルはどんどん少なくなり、夜は真っ暗な家の中は懐中電灯だけが頼りです。情報は防災無線からしか得られません。私はもちろん、あの時、厚真にいた全ての人が心細い気持ちでいたにち

がいありません。

そんな心細さに明かりをともしてくれたのは、避難所の開設でした。安心して過ごせる場所で、色々な人と交流することで心が落ち着き始めました。水や食事の配給も始まりました。カウンセラーの方が来てくれて話を聞いてくれました。大変な日々はしばらく続きましたが、その中でも私に安心を届けてくれたのは、役場の方々や自衛隊のみなさん、私達のために厚真に来てくれた多くの方々でした。しかも役場の方々みんな、私と同じように被災し、同じように大変な思いをしているはずでした。それなのに、私たち町民のために一生懸命、動いてくださいました。

そんな日々が続き、私は気付くことができました。今まで [当たり前] と思っていたことは、全て [誰かのおかげ] でした。水があるのも電気があるのも、そして今生きていられるのも [誰かのおかげ] なのです。不便な生活が続いたから、やっとわかったことでした。

あれから4年。[当たり前] の日常が戻っています。それでも、私はあの時、お世話になった人たちへの感謝の気持ちを持ち続けています。でも、あの時お世話になった方々に再び会って「ありがとうございました」と伝えることは難しいかもしれません。だから、もし、どこかで災害が起きたら、今度は私がボランティアなどで助ける側になったり、日常生活の中でも困っている人がいたら助けることで恩返しをしていきたいです。

今、私たちが生きていられる、便利な生活が出来ているのは [当たり前] ではなく [誰かのおかげ] です。その [誰か] への感謝の気持ちを忘れず、これからも生きていきます。

## 奨励賞



# 読書を「楽しむ」ことの大切さ

千歳市立千歳中学校3年

やべ ゆみ  
矢部 優実

「へいわのうた」これは私が生まれてから初めて好きになった本の名前です。私の母は、私が小さな頃から、よく図書館に連れて行ってくれました。そのおかげで、私は今も本を読むことが大好きです。読書は視野を広げたり、知識や教養を身に付けたりすることができるとても素晴らしいものです。

しかし、最近、読書をしない人が増えていることが社会で問題になっています。日本を含む七十二の国で行われている国際学力到達度調査(PISA)によると、文章を正確に取り取る力である読解力について、日本は低下傾向にあるそうです。また、PISAでは、読書が習慣になっているの方が、得点は高い傾向にありました。このことから、読書と読解力には、深い関わりがあることが分かります。

私は、読解力は人間にとって最も必要な力だと思っています。なぜなら、読解力を身につけることができるのは人間だけであり、読解力の凄さを知っているのも、人間だけだからです。実は、今から三百年ほど前の日本人はとても読解力が高かったといわれています。その理由は、当時の日本人が非常に読書好きだったからです。江戸時代の日本人にとって読書は一番の娯楽でした。たくさん本を読んでいけば、当然読解力や思考力は高まっていきます。そして、読書によって培われた力が、「明治維新」で発揮されます。日本人が身につけた読解力や思考力のおかげで、日本は奇跡と呼ばれるスピードで近代化に成功しました。

このような歴史から、読解力は人間にとってとても大切な働きをしてくれることが分かります。さらに、読解力が役立つのは江戸時代だけではありません。AI時代と呼ばれている現代にも、読解力はとても重要な力です。AIの発

達によって、今後、人間の職業がAIに代替されることが懸念されています。しかし、AIは読解力という力を身につけることができません。言葉が生み出す豊かな世界や、言葉に現れる複雑な感情を読み取ることなどは、人間にしかできないことです。AIの発達がどれだけ進んでも、人間にしか担うことのできない仕事は必ずあります。つまり、読解力はどんな時でも、私たちにとって必要な力なのです。

そして、その読解力をつけるためには、読書が一番の方法です。私は、読解力が高い人を増やすには、読書をする人を増やすことが必要だと思っています。では、読書をする人を増やすにはどうすれば良いのでしょうか？

「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」中国の有名な書物「論語」に出てくる言葉です。ある物事に対して、それを知る者は、それを好む者にはかなわない。それを好む者は、それを楽しむ者にはかなわないという意味です。私は、これは読書に向かう時の姿勢にもいえることだと思います。読書を楽しむことができれば、読書量が増え、読解力や思考力などの力は身につけていきます。私は、読書をする人を増やすには、読書を「楽しい」と思う人を増やすことが大切だと思っています。

長い文章を読むことに抵抗がある人は、漫画や雑誌など、読みやすいものから入るのも一つの方法です。まずは、写真や絵が多くても楽しいと思えるものを手に取るべきです。読書は何歳から始めても遅いということはありません。これから、私が幼いときに感じた本からの感動を多くの人に伝えたい。そして、読書の喜びを感じてくれる人が一人でも増えることを願っています。



## 他人と自分

蘭越町立蘭越中学校3年

くぼた しょうこ  
久保田 翔子

最後の笛がなり、私たち、三年生の試合が幕を閉じました。中体連、最後のバレーボールの試合が、今、準決勝のコートで。

これまでの部活動を振り返るとたくさんのことがありました。

私がまだ二年生のときです。三年生が引退し、一年生と試合に出るようになってからのことです。一年生の一人が、「バレー部が辛くやめたい。」と言いました。原因はあいさつです。バレー部が大切に生きて先輩から受け継いできた、いわゆる伝統です。それが一年生の一人には負担になっていました。きっと、その子だけに強く言ったからでしょう。「バレー部をやめたい。」その相談を受けたときは辛かったのが本音です。

最終的には、ミーティングを重ね、バレー部内でルールを作り解決しました。

今年に入ってすぐの頃です。私の左足首が異常に痛くなりました。病院で診断してもらった結果は、へん平足による足首の変形でした。私はあせりました。「中体連に出られなかったらどうしよう。」目の前が不安だらけの真っ暗になりました。練習ではなるべく無理をせずに、中体連に向けて動いていく方針にしました。一人だけ取り残されたように感じてしまいました。私がステージで休んでいる中、仲間はコートで、跳んでスパイクを打っていました。

夜、寝る前に、不安・孤独を感じ、よくわからない感情に襲われ泣く日もありました。私の中で、苦しく、辛いことでした。

そんな中、コート内で、自分の所に来たボールしか触らない人がいました。ずっと前からでした。言おうか悩むけれど、いつも言わない。そんな日が続いていました。コート外で見ている私にできることは言うことだと思い、言いました。

「動いてないよー。自分がボール触ってる時以外動いてないよー。」

と。その直後は、少しふてくされたようなそぶりを見せた彼女。部活が終わり、給水になった

時です。彼女は水道の前で泣きました。彼女を傷つけてしまったようです。私はどうすればいいのかわかりませんでした。私の責任なのか、私が悪いのか、でも、「謝るのは私じゃない。」そうも思いました。その後彼女は部活を休みました。戻ってきたのは約九日後でした。担任と顧問の先生と話して戻ってくることに決めたようです。正直、私は、納得できませんでした。でも、戻ってきてくれたことを良しとし、中体連に向け、気持ちを切り換えていきました。その後、チームはいつも通りをとり戻しコートの中で、コミュニケーションをよくとるようになりました。

これらの様々なことを乗り越えてきたチームは、団結し、いつもよりもいい顔でプレーをしました。コートに入る前のかげ声「さあいこー、よーし!!」一番大きい声を出し、最後の中体連を終えました。

これまでの部活動での経験を通して、私はどうすべきだったのか考えてみました。あのとき、「動いてないよ」と私が言うのではなく、先生に相談すればよかった。言う時期を考え、もっと前のうちに言えばよかった。

私のけがは、痛みを感じ、無理をしているなと思ったときに、安静にしていればよかった。

そして、一年生のあいさつについては、自分達の意見を押しつけずに、相手の思いもきいていればよかった。そう思います。

私は、部活動を通して、他人との付き合い方、自分自身との向き合い方について学びました。

これからは社会人になり、たくさんの人がいる中で行動をしていくこととなります。その中で生きていくためには、相手のことを考え、周りをもっと見ていくことを大事にしなければなりません。私は、その場の状況に合わせ動ける人、相手の辛さを理解できる人になりたいです。そして、自分の守り方を知り、自分を無視しない「これが私」と言える人になりたいです。

みなさんは、他人と自分、どうやって向き合っていますか。

## 奨励賞



# 部活で学ぶのは技術がすべてじゃない

浦河町立浦河第一中学校 3年

おおやなぎ まや  
大柳 茉耶

私は部活で学ぶのは技術よりも礼儀が大切だと考える。

部活のバレーボールの全道大会でのことだ。他のチームのボールが転がってきてそのボールを拾ってあげたとき「ありがとうございます。」と言ってくれたチームとそうでないチームがいた。そうでないチームは全道ベスト4にも入る強いチームだった。

「ありがとう。」

と言われたら言われた方も良い気分になれたし拾って良かったなと思った。逆にお礼も何も言われなかったら大げさではあるかもしれないが拾わなければ良かったという気持ちにまでなることもある。

また、宿舎ですれ違ったとき

「おはようございます。」

と言ったらそのチームの人は挨拶を返すことさえもしてくれなかったと同じチームの子から聞いた。私はその話を聞いて、そのチームはただバレーボールが上手な子が集まって強いだけで挨拶やお礼は全くできないチームなんだという印象がついた。私たちのチームは挨拶や返事、礼儀をすごく大事にしている部活だ。毎年、全国に行くような強豪でもない。だが、高校の監督や他のチームの人に

「応援したくなるチームですね。」

と何度か言われたことがある。そう言ってもらえる理由は試合会場や宿舎ですれ違った人のほとんどに挨拶をしたり、何より元気で明るいことが周りの人に良い印象を与えたのだと思う。

私は中学生のうちから礼儀や挨拶ができていないと大人になって社会にでたときに影響するのではないかと思った。

そこである「運動部学生の就職に関する意識調査」があった。約八割の人が部活動を通じて身についた強みは「礼儀・挨拶」と答えた。また、七割以上の人が運動部学生は就職活動に有利だと思う、と答えたそうだ。この調査結果から部活動で「礼儀や挨拶」を学ぶことで就職活動においても強みになることがわかる。

また、別の「職場でのストレスについての実態調査」があった。ほとんどの人が職場でストレスを感じていると答え、その要因は「人間関係」と回答する人が六割近くいたそうだ。このことから、現段階での職場の人間関係は全てではないが良い関係が築けているとは言えなさそうだ。どうしたら、職場の人間関係がよくなるのか。それはやはり中学校の部活で礼儀や挨拶を学んでおいて大人になって就職したときにも良い人間関係を築くことにつながるのではないか。それに部活動では礼儀や挨拶以外に、コミュニケーション能力も向上できるはず。人の関わり方は中学生ならではのしようもないけんかからたくさん学べるだろうし、先輩・後輩の上下関係などいろんなことを通して経験を積んでいけると思う。大人になって就職したときのことを考えてみると礼儀や挨拶ができ、コミュニケーションをとれる人のほうが職場の同僚・お客さんなどたくさんの人に良い印象を与え、周りのいろいろな人から好かれる人になる。今後社会に出たときに誰からも信頼される人になるには中学生のうちから礼儀や挨拶ができていたほうが信頼される大人に一歩近づけると思う。

だから、私は部活動で学ぶのは技術よりも「礼儀や挨拶」、「コミュニケーション」が大切だと考える。



## 私に必要な勉強

北斗市立浜分中学校3年

ひらお もえか  
平尾 萌花

「紙の勉強だけできてもダメだ。」と、体育の先生に言われたことがあります。私は、勉強はそれなりにできる方ですが、運動神経が鈍く、そのことをイジられたのだと思いました。だから、その時は気にしていませんでした。しかし、先生は、それに加えて「社会性が無い。」と言い出したのです。さすがに今度は気になりました。それと同時に「なぜ紙の勉強だけではダメなのか。」「紙ではない勉強とは何か。」という疑問が生まれました。

この頃の私は、極端に言うと、勉強さえできれば人生は大体うまくいくと思っていました。だから「勉強だけできてもダメ。」という言葉自体に納得がいかなかったのです。そこで私は、勉強さえできれば中学校生活は何とでもなるのだということを証明するため、一年生の後期に、クラスのまとめ役である学級委員に立候補しました。勉強ができることを根拠に、学級委員も同じようにこなせると信じていました。しかし、結果は…。クラスの前で立って話せばしどろもどろ、委員会では何も意見を出せず話し合いを眺めるだけ。学級委員として良い仕事をする事が全くできませんでした。悔しい、そう思いました。この経験で思い知ったのです。「勉強だけできてもダメなのだ。」と。先生の言っていた私の社会性の無さとはこういうことだったのです。学級委員を務め上げるために必要なものは、テストを解くための勉強だけでは身につけることができない、そう認めざるを得ませんでした。

先生は私に、「勉強ができて生きる力が無い。」とも言います。また、「自由を与えられると何をしたらいいのかわからなくなる」と指摘しました。人からの指示ではなく、何をすべきか自分で考えて動く。私はこれができなかったから、学級委員の仕事もうまくいかなかったのだと思います。自分で考えて行動するというこ

とは、社会に出ても必要なことだと思います。「紙ではない勉強」とは、「自分で考えて生きていくために必要なものを身につけるための勉強」だと私は思いました。

では、「自分で考えて生きていくための勉強」は、どのようにしたら身につくのでしょうか。私なりに考えてみましたが、まずは何事にも積極的に参加すること、これがいちばんだと思います。委員会や学級、系の活動など、参加すればするほど人と関わる機会が増えます。さまざまな人と話すことで自分の考えを広げられ、人との接し方についても学ぶことができます。積極性と協調性の両方を意識し、周りをよく見て行動、発言するように心がけてみよう、そう思いました。

そして、その後、学級委員のリベンジをして、私は図書委員会の委員長に挑戦しました。挫折した学級委員の時の反省を生かし、自分なりに満足のいく仕事ことができました。前よりも成長できたという実感もあり、嬉しく思いました。しかし、私に足りないものはまだまだあり、さらに成長したいという思いも増しました。

このようなことに気づいて、私が最初に思ったのは、先生への感謝です。私の未熟さを見抜き、それに気づかせてくださったおかげで、自分を少し変えることができたと思います。もちろん、今も、「紙の勉強」も大事だと思っています。勉強は忍耐力をつけてくれます。そして、自分の興味の幅を広げてくれるものであり、学生にとって努力し続けなければいけないものでもあります。

最終的に私が思ったことは、「紙の勉強」も「紙ではない勉強」も両方大切だということです。これから社会に出ていくために、両方の勉強から自分で考えて生きていくための力を身につけていきたいと思っています。

## 奨励賞



# 「できること」

乙部町立乙部中学校3年

みずがみ おうすけ  
水上 桜佑

「おかわりできる奴いるか？」

担任が今日も何か言っている。私たちの学級は、人数が少ない。それなのに、「給食を残さず食べましょう」と担任が言ってくる。学校に来られない友達の分や、休んだ人の分の給食を合わせるとなかなかの量である。給食を残さず食べることがそんなに大切なことなのかと、一年生の頃は考えていた。

皆さんは食品ロスという言葉を知ったことがあるだろうか。食品ロスとは、まだ食べられる食べ物が捨てられてしまうことだ。日本では毎年六百十二万tの食品ロスが発生しているそうだ。これを国民一人当たりで換算すると、毎日お茶碗一杯分の食べ物を捨てていることになる。

皆さんはどのようにこの問題を解決したらよいと思うだろうか。

「そもそも食品ロス削減が必要がなくていい？」と知っている人もいるかもしれない。でも、捨てられる食べ物は、ゴミとして処理場に運ばれ可燃ごみとして処理される。ごみを運搬するにもお金がかかる。焼却する際には二酸化炭素を排出する。ゴミをこのままのペースで捨てると、日本の埋立地は約二十年でなくなってしまう。どう考えても、食品ロス削減は必要なのだ。

私には、食品ロスを減らすためにできることが二つあると思う。

一つ目は、「自分の食べられる量をしっかり把握する」こと。私のクラスは給食を残すことがほとんどない。それは自分の食べられる量を正確に把握し、お互いにどれくらい食べられるかもある程度把握しているからだ。

自分の給食の量を見て「この量は食べきれなさそうだ」や「この量を時間内に食べきるのは難しそうだ」と判断できると量を減らしてもらえたり、ほかの人と交換してもらえたりする。この判断ができないと給食を残してしまうこと

になる。

このように自分の食べられる量を把握出来ていないと、『食べ残し』に繋がるのだ。「食べ残し」は、家庭における食品ロス全体の二十七%を占める大きな問題なのだ。

二つ目は「賞味期限に気を遣う」こと。

ある日、母と買い物に行った時、母に「卵取って」と言われた。私は適当に近くにあったものを渡した。しかし母は「これしかないの?」と聞いてきた。私は言われたことの意図がよく分からなかった。これしかないわけではないけど、置いてある卵と渡した卵の違いが分からなかったからだ。

私は「なぜこれじゃダメなの」と聞くと「これ賞味期限近いんだよね」と母は答えた。なるほど、私が渡した卵と置いてある卵では、賞味期限が違ったのだ。「勉強になるな」と思いながら、牛乳の賞味期限を眺めながら、ふと考えた。「賞味期限が切れたらこの牛乳は捨てられるのかな。もしそうならこの選び方で良いのだろうか。」

このようにみんなが賞味期限が遠いものを選んでみると、当然、賞味期限が近いものは売れ残り廃棄されていく。

食品ロスを減らすためには、「すぐに食べるものは賞味期限が近いものを選ぶ」気遣いをみんなですれば食品ロスを減らすことができるのではないだろうか。

三年間給食を残さず食べ続けた結果、私は色々な人の顔を思い浮かべることができるようになった。給食を作ってくれている人、食材を育てている生産者。一緒に残さず給食を食べてくれる仲間。

世界では、九人に一人が飢餓状態で三人に一人が何らかの栄養不良だという。

僕には何ができるだろうか？

あなたには何ができますか？



## 奨励賞



### 認め合いの輪を広げたい

遠別町立遠別中学校3年

いとう ひより  
伊藤 日和

「普通」。みなさんはこの言葉にどのようなイメージをもちますか。普段の生活でよく使っている人も多いのではないのでしょうか。

ある日、母と何気なく話している時に「普通に考えたらこうだよな」という会話がありました。私はこの会話の中の「普通」という言葉にふと違和感を覚えました。思い返してみると、これまで、私もいろいろな場面で何度も使ってきた言葉です。しかし、「普通」とは何なのだろう。「普通」の基準は誰が決めるのだろう。この日から、「普通」という言葉を聞くたびに考えるようになりました。

最近、「LGBTQ」という言葉を生活の中でよく耳にします。心や体の性のあり方が少数派の人を表す言葉です。私は、小学生の時に学校の授業でLGBTQについて学習し、当事者の方が「人と違うから」「普通じゃないから」という理由で様々な生きづらさを抱えていることを知りました。みなさんはLGBTQと聞き、どんなことを思いますか。「特に気にしない」「別にいいのでは」と感じた人もいれば、「みんなと違うから変だ」「普通の人ではない」と思う人もいるかもしれません。感じ方は人それぞれです。しかし、私は、実際にこのような否定的な意見が、当事者の方が発信している動画に対して、投稿されているのを見たことがあります。当事者の方がその言葉を見て傷ついたり、LGBTQであることを隠して過ごそうとするかもしれません。

そんな社会は、「一人ひとりが暮らしやすい社会」と言えるのでしょうか。多くの人と違うだけで普通じゃないと否定され、本当の自分を隠して生きる人がいる社会。「多様性」「個性」という言葉が飛び交う現代に、矛盾しているのではないかと思います。

こうしたことから私は、「人と違うこと」=「普

通じゃない」と否定されてしまう考え方をを変えたいと思いました。そのためにまず、私の中にある「普通」とは何かを考えてみました。私にとって「普通」とは、個人の基準で判断されるもの、つまり人それぞれの価値観によって異なるものだと思います。だから、周りの人に「普通じゃない？」と言うのは自分の価値観の押し付けになると考えました。

世界中のどこにも全く同じである人はいません。違うことが当たり前です。それなのに人は、同じ考えをもつ仲間を作り安心し、仲間を増やすことで、もっともっと安心感を得るのかもしれない。しかし、一人でも多くの方が暮らしやすい社会につながるように、一人ひとりがもっと広い視野をもち、様々な考え方を受け入れる必要があると思います。

ただ、同時にそれはとても難しいことかもしれません。もしも、それが簡単にできていたら、今までの歴史の中で巻き起こっていた争いはなかったと思うからです。それでも、同じ悲しみを繰り返ささないように、少しずつ意識や行動を変えていくことから始めるべきだと思います。

私は、自分が「普通」だと思っていた考え方とは違う考え方に出会えた時、自分の「普通」を押しつけない、自分の成長の機会だと考えることができるような人になりたいです。そのために、普段の生活で積極的に相手の言葉をメモするなどして、心の中に留め、自分の人生をより色彩豊かなものにしていきたいです。

多様性を理解し、認め合うことは、性のあり方、身体の違い、人種などの様々な社会問題の解決にも必要なことだと思います。自分の周りから、日本へ、世界へ、認め合いの輪が広がり、誰もが生きやすい世界になることを願っています。



## 自分の仕事に誇りをもって

利尻町立利尻中学校3年

いいだ さえ  
飯田 冨

人はどうして大変な仕事を続けていけるのでしょうか。

私の周りには毎日働いている大人がたくさんいます。

どうして辛い仕事を毎日続けられるのでしょうか。

お金のためだけで辛い仕事を毎日続けられるのでしょうか。

大変な仕事を毎日続けるには何が必要なのか。ネットで調べても「これだ」というものは出てきませんでした。そこで、私は人がなぜ働くのかについて自分なりの答えを探してみようと思いました。

初めに注目したのは、私の祖父です。

私の祖父は、今年七十歳になりましたが、まだまだ現役漁師です。春からニシン、ホッケ漁、夏にはウニや昆布を採り、秋にはサケ漁を行います。冬も来年の漁の準備をしていて、一年中朝早くからたくさんの仕事をしています。今年で漁師を始めて五十五年だそうです。

どうして、祖父は五十五年も漁師という大変できつい仕事を続けられているのでしょうか。お金を稼ぐだけなら別の仕事でもいいわけですがどうして漁師なのでしょうか。

先日祖父のニシン漁の手伝いをしました。ニシン漁では祖父と仲間の漁師たちが船で網を刺し、ニシンがかかった網を巻いて、その網からニシンを私たちみんなまで外します。そして、オスとメスを選び箱に詰め、組合に出荷する、というのを夜中から夕方まで何度も繰り返します。

ニシン漁は根気と体力が必要です。私は、疲れて、同じ作業に飽きて、生臭いので途中でやめたくまりました。しかし、祖父や仲間の漁師たちは何日もきつい作業を繰り返し行っているのにも関わらず楽しそうに仕事をしていました。

その祖父の姿を見て私は、祖父が五十五年間も漁師という仕事を続けられている理由がわかったような気がしました。

次に注目したのは、総合の進路学習で出会った人たちです。その人たちはばらばらの国で働き、年齢や職も様々でした。ですが、彼らにインタビューしてみるとみんな同じように輝いていて、自分の仕事について語る時には本当に楽しそうにお話ししてくれました。実際に「その職に就いてみてどうでしたか。」と聞いてみたところ、「自分が誰かの助けになっていることがうれしい。」「人から感謝されることで仕事を頑張れている。」とおっしゃっていました。

祖父の手伝い、インタビューを通して、私は、この人たちは皆自分の仕事にやりがいと誇りをもって感じるのだと感じました。だから、彼らは楽しそうに仕事をし、自信を持って仕事について語っていたのだと思います。

働く人にとってやりがいは、高い給料、成果の承認、能力の発揮、社会貢献、自己の成長など様々なものがあるといわれています。

今回例に挙げた大人たちは、それぞれ自分たちの仕事に、やりがいを見出し、辛いことも苦しいことも乗り越えられているのだ、と思います。その経験が糧となり、「自分の仕事に誇りをもつこと」ができるのだと私は考えます。

私も将来は自分の仕事に誇りをもって働きたいです。今、私は国と国をつなげ、日本や他の国の良さを世界へ発信する国際関連の仕事をしたと思っています。誇りをもって仕事をするということは難しいことかもしれませんが、ですが、今興味があることをもっと調べていき、将来私が働くときには、なぜこの仕事を目指したのかという目的を忘れず、常に自分の仕事を好きでいることを心掛け、今後出会う人や自分の興味を大切にしたいと思っています。

そして今は、たくさん勉強し、自分の長所を磨き、それを自分の武器とできるよう、努力していきたいです。

たとえ無理だと否定されても、私は、誇りをもてるような仕事に出会えるように、常に前を向いて、自信を持って行動したいと思っています。

## 奨励賞



# 「声で伝える」ということ

斜里町立知床ウトロ学校9年

いわやま みさ  
岩山 心咲

「それ、どんな本？」

私は友達にそう聞かれたことがあります。私は彼女にあらすじを伝えようとしたがなかなか上手く伝わりません。そうしているうちに、彼女は別の友達に呼ばれ、申し訳なさそうに去っていきました。その出来事から私は時々、「声で伝える」ということについて考えることがありました。インターネット社会である現在は「文字で伝えることの難しさ」について取り上げられることが多いですが、思いを伝える上で難しいのは本当にそれだけでしょうか。

そもそも、伝えるということはなぜ大切なのでしょうか。人々は、他人と意見を交換し、深めることでさらに明確な考えを得ることができます。そこで、大切になるのがコミュニケーション、相手に伝えるということなのです。では、相手に物事を声で伝える上で大切なことは何でしょうか。私が最も大切だと考えるのは、文の構成です。「声で伝える」ということは、もちろんメッセージアプリのように自分の発言内容を確認したり、削除したりすることは不可能です。文字で相手に伝える際にも大切ではありますが、物事を声で説明する際には特に、最も重要なものから順に話すことを心がけることで、より相手に伝わりやすくなると思います。

このように「声で伝える」ということはとても難しいことなのです。では、メールやSNS上で意見を発信できる今、「声で伝える」ということはなぜなくならないのでしょうか。その例として挙げられるのが、ラジオです。TVのような映像もないのであれば、ラジオで伝える内容は全てSNSで発信すれば良いのではないのでしょうか。一つ理由を挙げるとするならば、自分の感情を直接伝えることができるということだと考えます。声というものは、人の感情やその起伏がよく現れます。そのため、自分の率直な気持ちをそのまま聞き手に伝えることがで

きるのです。私もラジオが大好きで様々なラジオ番組を聴くのですが、どの番組においても、大切になるのはやはり声なのだと感じます。話し手の声からは様々な感情がよく伝わってくるのです。その他にも、聞き手がメールで参加したり、ときには電話を繋いだりして共に番組を作っていくこともラジオのメリットだと考えます。このように「声で伝える」ということのメリットが生かされ、現代でも放送が続いているのがラジオです。更に、感情を伝えることが重要なのはラジオだけではありません。メッセージアプリで会話をする際に自分の感情を上手く伝えることができず、相手とすれ違ってしまった経験はありませんか。例えば、Aさんが「ごめん。」と何らかの出来事をきっかけに謝ったとします。それに対する答えとしてBさんは「もう、私達友達じゃない。」と返しました。Bさんは別に友達だからいいじゃないと返したつもりでも、この言葉は抑揚をつけず文字で伝えられると、多くの人がもう私達は友達なんかじゃないと言われたのだと感じ取るでしょう。他にも、漢字の読み方によってすれ違いが起きることもあります。数人で遊ぶ約束をしているとき、Cさんが「私も遊びたい。」とメッセージを送ったとします。それに対してDさんは「何で来るの？」と答えました。しかし、「何」という漢字は「なん」とも読むことができるため、Dさんは来る手段を尋ねたつもりでも、「なんで来るの。」とCさんは来るなという意味で受け取られることもあります。人と会話をする場面でも、やはり、伝えたいことは自分の感情とともに「声で伝える」ことが重要だと考えられます。これらのことから、「声で伝える」ということは社会にとって大切なことであり、SNSが急速に発達する現代においても、私たちが暮らし、生活していく上で欠かせないものであると私は考えました。

## 奨励賞



# ジェンダーレスへの一歩

中札内村立中札内中学校2年

やまの さり  
山野 紗璃

私は小学生の頃から、リーダーになることが多かったと思います。それは自分からなりたいと思う気持ちと、誰もやらないならという責任感があったからです。そんな中、私は一つの疑問を抱くようになりました。それは「なぜ小学校から高校までは生徒会等に女性が多いのに、社会で政治を行っているのは男性が多いのだろうか」ということです。

中札内中学校の現生徒会を見ても、七名中六名が女性です。学校では女性の活躍が見られるのに、なぜ社会ではそれほど見られないのでしょうか。

そこで、一番身近な中札内村がどのような状況なのか調べてみました。

村の男女共同参画会議で、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という質問に対し、賛成が三十三パーセント、反対は約六十四パーセントという資料が示されていました。

反対派の意見には、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから」や、「男女平等に反すると思うから」という人権的な意見がありました。これらは、SDGsに含まれていたり、社会でも話題になったりしているので、村の中でもこうした流れが強まっているのだと感じます。

また、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」という社会参画の視点をもった意見もありました。これはまさしく、ジェンダーレスな社会を認めていく意見だと思います。性別に関係なく、一人一人の能力に合う「適材適所」で活躍できる社会を目指す村であることを実感でき、嬉しく感じました。

一方で賛成派の意見では、「育児・介護・家事と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」という役割分担の意見がありま

した。しかしこれは、夫が育児などに参加する割合が少ないことを暗に示しているように感じました。やはり、お互いを尊重しながら生活していくべきだと私は思います。

最後に、「伝統的な家族の在り方だと思うから」という回答もありました。今までの日本社会の考え方の良さもあるのでしょうか。しかし、核家族が主流となった今、妻だけでは家庭を守ることは難しいのではないかと、私は思うのです。

さて、ここまでは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という質問の反対・賛成意見について考えてきました。村でも、男女共に働く社会を目指していることがわかりました。しかし、残念なことに「家事を担う女性は約六十パーセント」というデータもあります。つまり、いまだ女性が家事の多くを担っているということです。この事実は平等を大切にしたいに矛盾していると感じます。

ジェンダーレスな社会を築いていくにはこの矛盾をなくすことが必要だと思います。そのためには女性が働きやすく、男性が育児・家事に参加しやすい環境づくりが欠かせません。現に教員の私の父は、教頭になることを求められて教頭になり、育児や家事のための休暇を取りにくくなったそうです。

これらの矛盾をなくすために伝えたいことがあります。それは社会や他人の意見を聞くだけにならないでほしい、ということです。「みんながこう言っているからこうする」ではなく、自分自身で考える必要があります。さらに、一番意味がないと思うのはジェンダーレスを目指すという形だけが残ってしまうことです。一人一人が自分で考え、考えを他者と議論していく。その中で、よりよい社会を作っていく要素になればよいと、私は思います。



## 負の連鎖を断ち切る

釧路市立幣舞中学校3年

さじょう れんと  
嗟城 蓮人

皆さんにとって、子供とはどのような存在でしょうか。時には愛くるしい姿を見せ、また時には、「あれ買って!」「これ買って!」とわがままを言って私達を困らせるような姿を想像する人がほとんどでしょうか。また、中学生の中には、どう接してよいか分からない存在だと思っている人も多いかもしれません。僕は、小さい頃から幼ない子供と接するのが大好きで、今では自分の通っているダンスチームの、最年少クラスのお手伝いに毎週足を運んでいます。彼らの純粋無垢な笑顔からはいつも元気ももらっています。

しかし、僕はこのニュースが流れてくる度、悲しい思いでいっぱいになります。それは、児童虐待です。そして、なぜあんなにも可愛く、罪のない子供たちが被害にあわなければならないのかと疑問に思ってしまう、心がもやもやします。年々増加しつつある、虐待。なぜ、こんな悲しいニュースが、絶えなく私達のもとへと流れてくるのでしょうか。

僕の住む街釧路でも虐待の事件は起こりました。二〇二二年六月十二日。幼い兄弟を自宅に半日以上放置し、そのうち次男は死亡してしまっただけという事例があります。なんとその両親は「パチンコがしたかった」という、自分達の欲求を満たすためだけに、兄弟を自宅に放置したそうです。親の自分勝手な行動により、罪のない次男が命を落としてしまったと考えると、あまりにも可哀想です。僕には九歳離れた妹がいますが、もし自分の妹がそんな目にあっただと考えると…胸がしめつけられて、身近でこんな悲惨な事件が起こってしまったことが本当に信じられません。

虐待。それは、いかなる理由があろうと決して許されない行為です。この悲しいニュースを解決していくためには、ただ親をせめて止めようとしても、難しいのではないかと考えます。困っていることを相談したり、辛いときに子供をあずけられる場所をつくるなど、まわりの関係機関が、子育てに不安や悩みをかかえている親の心理的なサポートをしていくこと、そして何より、子供も親も住みやすい街にしていくことが大切だと思います。

自分が住んでいる街で二度とこのような悲しい事件が起こらないように、それぞれが、虐待について知ること、そして子育て中の親子に優しいまなざしを向け、泣き止まず困っている、ベビーカーで階段の上り下りに困っているなどを見かけたら、自然と手をさしのべるような街づくりをしていってはどうでしょうか。

中学生である私達にも、決して関係のないことではなく、虐待のニュースや話題が耳を通過しようとしたその時には「自分は絶対にそんな人間になってはいけない」と心の中で強く思うべきです。また、地域の中を歩くことが多い私達中学生は、「子どもが毎日泣いている家庭がある」「体にきずやあざなどがある」など、「これは虐待かも」と少しでも思うようなことがあれば、それを、先生や親に言える、勇気が持てるようになれば、私達にも、子供が救えるかもしれません。

虐待を受けた子供の多くが、心や体に一生消えない傷を残し、それを生涯背負っていくことになっていきます。真っ白な紙を、一度くしゃくしゃにしてしまえば、元の綺麗な紙には二度と戻せません。負の連鎖を断ち切るのは、私達です。

## 奨励賞



# 個性超ある子、成長ある

標津町立標津中学校3年

からさき あいか  
唐崎 愛華

「障害」と聞いて、どう思いますか。障害というたくさん種類があると思います。そこで今回は発達障害を持つ子どもをみてどう思うかという問いで主張させていただきます。

なぜ私が障害をテーマにしたかという、妹が知的障害という周りより言葉や身体の発達が遅れる障害を持っており、姉として妹に対する、もっと言えば障害者に対する見方を改めてほしいと強く思ったからです。

まずはクラスの人にアンケートを採って色々な意見を集めました。十四人の内「かわいいと思う」が三人。「手伝おうと思う」が二人。「かわいそう」が一人。「健常者と同じく接したい」が三人。「個性的だ」が五人という結果でした。みんな優しくいい人達だと安心し、改めて同級生で良かったと実感しました。他にも意見が欲しくてネットで調べてみると、「やはり手伝ってあげたい」という思いを持っている人が多かったです。

私も妹のやっていることを手伝いたいと思いやっていたのに、「やめて。」と言われたことがありました。私はせっかく手伝ったのにとがっかりし腹が立ち、ふてくされて録画していたドラマを見ました。これは発達障害を持っている妻と社会を描いたもので、障害者への思いが変わる、私にとって心に響くドラマでした。

私が特に印象的だったのは、妻が主婦として頑張っているところに夫の悟が少しでも力になりたいと手伝おうとした場面です。妻は自分でやっていたのにと悟を邪魔者のように扱ってしまい、喧嘩してしまいました。この場面を見て私ははっとしました。私は妹のできることを減らしていたのだと知り、素直に謝りました。これからは妹に「これできる？」と一言聞いてから手伝おうと心に決めました。

それから私は、妹に「このお皿運んでもいい？」や、「頑張ってるね。」と声をかけることが増えました。すると妹から「ありがとう。」という言葉がもらえることができました。そんな妹を見ていると楽しそうでいきいきと仕事をしているように感じました。私が変わることで妹の言葉使いが優しくなり、二人とも成長したなと思いました。

ネットや実体験から私達健常者は、障害者に対してできることが少ないという偏見を持っています。その気持ちから手伝おうという優しさが生まれ、人は動くのでしょうか。それは確かに分かります。しかし、障害者側からはどうでしょうか。障害を理由にできることを減らしたくないのではと私は考えます。きっと手伝ってほしい場面はあるはずですが、でも健常者と同じようにまずは自分でやってみたいのではないのでしょうか。きっと私の妹の「やめて。」はこのようないい思いがあったのだと思います。

発達障害にしぼって主張してきましたが、つまり私が言いたいことは二つです。一つ目は、障害者に対する偏見を持ってしまふのは当然だと思います。だからこそ、何かするときは一言声をかけることを当たり前に行ってほしいです。

二つ目は、障害という言葉にとらわれず、個性であると考え、特別扱いしてほしくないということです。みなさんでも苦手なこと、難しいことがありますよね。それと同じように考えれば、障害者は苦手なことが一つ二つ多いだけと考えることができます。その一つや二つのことに手伝いが必要だとしても、個性であり、伸びしろだと思ってほしいです。

最後に、みなさんは障害と聞いてどう思いますか。私は今なら一言で言えます。「個性超ある子、成長ある！」と。

最後に、みなさんは障害と聞いてどう思いますか。私は今なら一言で言えます。「個性超ある子、成長ある！」と。

## 奨励賞

# 曾祖父母への感謝



札幌市立平岸中学校 2年

ぼん めか  
坂 夢叶

今日も私は、仏壇に感謝の気持ちを込めて手を合わせる。

去年、一緒に住んでいた祖父が、病気で亡くなりました。家族を亡くした経験が初めてだった私は、悲しみのあまりに気持ちが沈み、死と向き合えない毎日を過ごしていました。しかし、祖母や両親が仏壇に話しかけたり、綺麗なお花を供えたりしている姿を見て、私も徐々に仏壇に手を合わせるようになっていきました。仏壇には祖父だけではなく、私が産まれる一年前に亡くなった曾祖母と、お腹にいた時に亡くなった曾祖父の遺影がありました。会ったことのない曾祖父母は、私にとって漠然とした存在でした。毎日仏壇に手を合わせるようになり、遺影でしか会ったことのない曾祖父母のことを、いつしか知りたいと思うようになりました。そしてある日、母と話をしている時に、何気なく曾祖父母のことを尋ねてみることにしました。すると、母は真剣な表情で語り始め、その内容は私の想像を絶するものでした。

曾祖父は若い頃、第二次世界大戦でパプアニューギニアに兵隊として送られていました。パプアニューギニアは激戦区の一つだったため、食料は手に入らず、蛇やとかげを捕食し、なんとか飢えをしのぎ、ついさっきまで共に戦っていた仲間たちが、目の前で死んでいく姿を目の当たりにし、次は自分の番だろうと、死を覚悟する日々を送っていたようです。命からがらに、なんとか帰れるようになったのは、終戦後しばらくたってからでした。帰りの船は大きな船だったといえます。船を昇るはしごは長く、乗り込む前に力尽きてしまい、あと少しで日本に帰れるというところで亡くなった人も、たくさんいたといえます。私は、生きて帰ってこられたことが奇跡のように思いました。「もしも、曾祖父が生きて帰れなかったら、私は産まれていなかった。」そう考えると、戦争はしてはいけないもの、悲惨なもの、という認識から、戦争が本当に恐ろしいものだ、と、認識を改めることになりました。実際に曾祖父の前では多くの人が力尽き、息絶え、命のバトンが途絶えてしまったことを考えると、戦争が憎くてたまらなくなります。

曾祖父母は、戦争中から戦後にかけての食糧難や、生活に必要なものがなかなか手に入らなかった経験により、土地やお金、ものを大切にすることを覚えました。家の中は、地域のごみ捨て場を巡回し、収集したもので溢れていました。私の母は、幼少期、捨ててきた服を曾祖母がリメイクして着たり、捨ててきたブロックなどのおもちゃで遊んだりしていたといいま

す。曾祖父が苦勞して手に入れた土地を大事に守り、お金は極力使わず、毎日とても慎ましい生活をしていました。私は、この話を聞き、戦争は、これほどまでに当時の人々の心に大きな変化を与え、人々は、毎日不安と戦い続ける生活を強いられるようになってしまったのだ、と思いました。

私は、母から曾祖父母のことを聞くまで、戦争で日本が負けて、たくさんの方が犠牲になったという事実に対して、あまり実感が湧いていませんでした。でも、実際に曾祖父が戦争に行った話を母から聞くと、想像が一気にリアルになりました。世界では、今もリアルタイムで戦争が起こっています。日本は大丈夫、無関係だと思っていましたが、過去を振り返ると、わずか七十八年という遠くない出来事で、またいつ日本で戦争が起こってもおかしくないと思いました。今は、戦争をリアルに知らない人が多くなり、安心・安全でものにあふれる幸せな時代だからこそ、戦争を恐れずにみんな生活しています。戦争のことについて知らない人が多いと油断が生まれてしまい、大きな戦争に巻き込まれてしまうこともあると思います。もう戦争という悲しい出来事を二度と起こしたくないと思い、そのために曾祖父母と戦争のことをずっと語り継いでいこうと決意しました。曾祖父母は土地やお金、ものを大事にする心、戦争のない世界の大切さなど、未来ある家族にさまざまな財産を残していったのだと思います。

現在もウクライナの紛争や北朝鮮のミサイル発射問題等、世界各国で戦争と隣り合わせの状況の中、決して日本も他人事ではなく、今ある当たり前の日々が、明日終わる可能性も考えられます。今、日本で私達が安心して生活を送れているのは、曾祖父母を含む戦争を経験し、犠牲になった方々のお陰です。その世代の方々が少なくなっていく中で、戦争を知らない若い世代の一人一人が、戦争のない平和な世界を継続するために、自分たちに何ができるのかを考え、次の世代に語り継いでいくことが私達の使命だと思います。

今、この瞬間も、私には曾祖父母が残してくれた家があり、そこで大好きな家族と、美味しい食事を食べ、安心して過ごしています。学校に通い授業を受け、大切な友人達と支え合うことができている。この当たり前のように思えることが、かけがえのない幸せだと改めて気づくことができました。

このような、今というかけがえのない幸せを作ってくれた曾祖父母に、今日も私は、感謝の気持ちを込めて手を合わせる。

## 私が歩む夢への道

鳥取県 米子市立東山中学校3年

矢曳 未来

私は障がいを持っている障がい者だ。生まれつきではなく、六年前に交通事故に遭ったことで後遺症が残ってしまったのだ。事故後のショックで歩けなくなった。記憶力が低下した。集中力が続かなくなり、些細なことで疲れて怒りっぽくなった。私はその後遺症を負ったことで、できないことが増えた。生活に関する不自由、勉強に関する不自由、その他色々なことで前の自分のほうが良かったと思う。最近は怒りの気持ちより、悲しみの気持ちが増えたように思う。

私には二つ上の姉がいる。私は今、中学校三年生だから、高校進学を考えたときに真っ先に頭に浮かんだのは姉だった。姉と同じ高校に行きたいと思った。けれど、それはとても難しい選択だと知っていた。私には障がいがあり、姉とは違うからだ。障がいを負ったことで、勉強に集中して取り組むことが難しくなり、できることよりできないことが増えた私に高校進学なんてできるだろうか考えた。今は自分の体の状態が少しずつわかってきたからこそ言えることだが、私には普通校進学は難しいのだろうと考えている。けれど、前は変わった自分を受け入れたくなかった。やれば私はできる。元のように戻れると考えていた。そう思って中学校に通ってきたが、今となってはそれも難しいということを知った。大きくなるにつれ、自分の体がわかってきたからだ。自分を知るというのは、辛いことなのかもしれない。私は、そのことを理解したときから、なんだか体の力が抜けて悲しくなった。私は、もしかしたら小学校から中学校に上がる時、事故に遭う前の自分に戻りたくて、姉と同じ東山中学校を選んだのかもしれない。

そんな理由で選んだ中学校だけど私は今、その選択をして良かった、幸せだと思う。なぜなら中学校に通っていると、先生たちが私を本当

に大切にしてくれているということがわかるからだ。それは、私が今、何よりも欲している気持ちだ。また、中学校に通うことで、同級生と一緒に勉強をすることができた。勉強だけではなく、色々なことに挑戦させてもらえた。委員会活動や応援団に参加することができた。そしてこの三年間を通して、私は全てが全て融通が効くわけではないということも知ることができた。

私は大人になったら、支援学校や支援学級の教師になりたい。中学校の先生達私を大切にしてくれているように、私も教師になったら、支援学校や支援学級の子供達を大切にしたい。生まれつきの障がいがあったり、体が不自由で普通校には通えなかったりする子供達に「あなた達には居場所がある、一人ではない」ということを知ってもらいたい。そのために私は自分を見つめ、自分にできることを探していきたい。だから私は、高校は養護学校に行きたい。養護学校で自分の可能性を見つけ、自分にできること、誰かの役に立てることを探していきたい。

私は最初からこのような考えを持っていたわけではない。最近になってやっと「できない自分」を受け入れられるようになってきたのだ。小さい頃から頑固で、これだと決めれば、周りの人の言うことなんて聞かなかった。だから事故に遭って同年代の人達より、できないことが増えたということが、ものすごくコンプレックスだった。

けれど、もうそれは過去の話だ。今の私はこうなのだから仕方がない。この考えは、自分できないと諦めたのではなく、自分を認めたのだ。私は、私なりの道を歩むことを願う。私は自分の歩幅でゆっくりゆっくり「私の夢」を叶えようと思う。目的地へ時間をかけて進んでゆくカタツムリのように。私の夢はどこまでも続いていく。



## 大会のねらい

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していける、健やかな成長が求められています。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表してもらう機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機となることを目的としています。

(国際児童年の昭和54年から毎年開催)

## 大会のあらまし

■総合振興局・振興局地区大会 地区代表者の選出

■全道大会 地区代表者16名の参加  
最優秀賞1名（北海道・東北ブロック代表選考に推薦）  
優秀賞3名、奨励賞12名を決定・表彰  
（最優秀賞・優秀賞の4名には、「北海道コンサドーレ札幌賞」を贈呈）

■全国大会出場者の選出

全国5つのブロック（北海道・東北／関東・甲信越／中部・近畿／中国・四国／九州）毎に、都道府県代表者の主張原稿及び動画を審査し、各ブロックの代表者が選出される。

■全国大会

令和5年11月12日（日）東京都（国立オリンピック記念青少年総合センター）において開催。  
各ブロックの代表者12名が参加（内閣総理大臣賞ほか各賞決定）。

## 審査員

■審査員長 (敬称略)

山田 誠一 北海道中学校長会情報部副部長（安平町立早来学園校長）

■審査員（50音順）

木 寄 美 和 公益財団法人北海道青少年育成協会理事（北海道新聞社編集局くらし報道部長）

城 野 文 久 北海道PTA連合会 事務局員

山 谷 信 夫 北海道保健福祉部子ども政策局こども家庭支援課虐待防止対策担当課長

吉 田 昌 幸 北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課長補佐

# 令和5年度「少年の主張」総合振興局・振興局地区大会開催状況



応募校数 287校 応募者数 27,197名

総合振興局・振興局名	開催日	開催場所	参加校(校)	発表者(名)	審査委員(名)	聴取者等(名)	応募総数(名)
空知	7月14日	砂川市地域交流センターゆう	24	14	5	100	780
石狩	7月19日	かでの2・7	7	6	4	37	8,653
後志	7月28日	後志総合振興局2階講堂	12	18	5	20	18
胆振	7月19日	胆振総合振興局3階会議室A	36	11	3	40	3,384
日高	7月1日	日高合同庁舎4階講堂	15	6	5	41	613
渡島	6月15日	渡島合同庁舎3階講堂	17	1	5	47	387
檜山	6月27日	厚沢部町民センターあゆみ	10	16	5	102	386
上川	7月10日	上川合同庁舎3階講堂	22	21	5	77	1,200
留萌	7月25日	留萌合同庁舎2階講堂	8	7	5	41	281
宗谷	7月25日	宗谷合同庁舎講堂	12	10	5	30	279
オホーツク	7月19日	網走市立第五中学校	17	6	3	96	105
十勝	7月1日	十勝総合振興局3階講堂	48	18	4	53	8,268
釧路	7月26日	釧路市生涯学習センターまなぼと多目的ホール	37	8	5	78	1,118
根室	7月19日	標津町生涯学習センターあすばる	20	9	6	204	1,723
札幌市			2	2			2
<b>合計</b>			287	162	65	966	27,197

※札幌市のみ推薦方法が異なるため、他地区と同一条件による集計ができません。

# 令和5年度「少年の主張」実施要領

## 1 目的

少子高齢化、国際化、情報化の急速な進展等、社会や国際的な環境が大きく変化する現代社会にあって、次代を担う少年には、心身ともに健康で他者を思いやる心を持ち、社会的に自立していきける、健やかな成長が求められている。

そのためには、広い視野と柔軟な発想や創造性などとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらおう力などを身につけることが大切であることから、少年が社会に向けての意見、未来への希望などを発表する機会を設け、少年の健全育成及び非行防止に対する道民の理解を深める契機とすることを目的とする。

## 2 主催

北海道、公益財団法人北海道青少年育成協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構

## 3 主管

(総合) 振興局地区大会は各(総合) 振興局、全道大会は保健福祉部とする。

## 4 対象

北海道内に在住の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にあるもの(以下「中学生」という)。

※国籍は問わないが、日本語で発表できること。なお、作品は未発表、自作のものに限る。

## 5 名称

少年の主張

## 6 実施方法等

### (1) (総合) 振興局地区大会

各(総合) 振興局管内(札幌市を除く)の中学生を対象に主張を発表する場を設定する。

#### ア 実施方法

大会形式により実施する。

なお、換気、消毒、距離の確保や主催者のマスク着用など基本的な感染防止対策を講じ、また、地域の新型コロナウイルス感染症等の状況に応じて、観客数の制限など必要な対策を講じること。

また、参加者間の公平を損なわない形で、既存ICT機器を用いたりリモート方式を採用することは差し支えない。

#### イ 募集

- ・教育局の協力を得て、管内市町村教育委員会等を通じて、各学校に対し、周知を図る。
- ・各市町村単位、各学校単位で実施している主張大会、弁論大会等と連携した募集の他、自由公募などにより募集する。
- ・広報媒体を利用した募集に努める。

#### ウ 発表内容

次のような内容で、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを少年らしい自由でユニークな、飾り気のない言葉でまとめたもの。

- ・社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など
- ・家庭、学校生活、社会(地域活動)及び身の回りや友だちとの関わりなど
- ・テレビや新聞などで報道されている少年の問題行動、大人や社会の様々な出来事に対する意見や感想、提言など

※商業的な固有名詞の使用は極力避けることとする(例えば、「〇〇にある〇〇旅館」を「〇〇にある旅館」に言い換えるなど)。

※楽器、絵画、フリップボード等の小道具を使用したパフォーマンスを取り入れてもよい。

#### エ 発表時間

5分程度(400字詰原稿用紙4枚程度)

※全国大会の規定が、学校名、氏名、タイトル等の部分を除く「作文本文の出だし」から「作文本文の終わり」までで4分30秒～5分30秒となっているため、この範囲内に収めてください。

#### オ 審査

- ・関係機関等に、選考に係る審査員の推薦を依頼する。
- ・審査により、順位付けし、最優秀者1名及び優秀者2名を決定する。

#### カ 審査基準

##### (ア) 論旨

- ・鋭い感性で、新鮮な主張であるか。(中学生らしさ)
- ・新しい情報や視点があるか。

- ・ 個人の体験にとどまらず、一般性・社会性があるか。
- ・ 提案や提言を実現・実践する意欲が感じられるか。
- ・ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。

(イ) 論調

- ・ 主張の内容が共感と感銘を与えているか。
- ・ 説得力ある話し方であったか。
- ・ 話し振りに熱意と迫力があるか。

キ 実施月（審査月）

原則として7月の「青少年の非行・被害防止道民総ぐるみ運動強調月間」に実施する。

ク 表彰

- ・ 最優秀者1名及び優秀者等に対して賞状等を授与する。
- ・ 表彰に当たっては、賞状の他、副賞の授与など、地域の実情等に応じ、予算の範囲内で工夫して差し支えない。

ケ 推薦

最優秀者を全道大会参加者として、8月4日（金）までに、保健福祉部に推薦する。最優秀者が参加できない場合は、次位の者を推薦する。

コ その他

別添の地区大会実施要領案を適宜変更して要領を定める。

(2) 全道大会

（総合）振興局からの推薦者各1名及び札幌市中学校長会からの推薦者2名を対象に主張を発表する場を設定し、審査を実施し、最優秀者（1名）及び優秀者（3名）を選考する。

ア 実施方法

大会形式により実施する。なお、換気、消毒、距離の確保や主催者のマスク着用など基本的な感染防止対策を講じる。

イ 発表内容・発表時間

（総合）振興局地区大会と同様とする。

ウ 審査・選考

- ・ 審査は、関係機関等から推薦された審査員が発表原稿及び大会当日の発表により実施する。
- ・ 審査基準は、（総合）振興局地区大会と同様とする。
- ・ 審査により順位付けし、最優秀者及び優秀者（以下、「入賞者」という。）を選考する。
- ・ 審査結果は、公益財団法人北海道青少年育成協会のホームページ上で発表する。

エ 実施月日

9月8日（金）開催の「北海道青少年育成大会」において実施する。

※新型コロナウイルス感染症等の状況に応じて、実施方法を変更する場合があります。

※また、全道大会で撮影した主張を、公益財団法人北海道青少年育成協会のホームページ上で、一定期間公開する。

オ 表彰

入賞者には、全道大会席上で賞状及び副賞を授与し、入賞者以外の主張発表者には奨励賞を贈呈する。

※新型コロナウイルス感染症等の状況に応じて、実施方法を変更する場合があります。

カ 全国大会への推薦

全道大会最優秀者を全国大会出場候補者として、独立行政法人国立青少年教育振興機構に推薦する。最優秀者が全国大会に出場できない場合は、優秀者のうち次位の者を推薦する。

キ その他

主張発表者には、道から全道大会参加に係る旅費を支給する。また、主張発表者の引率者（1名）には、公益財団法人北海道青少年育成協会から全道大会引率に係る旅費を支給する。

7 その他

- ・ 主張発表者の原稿は400字詰原稿用紙（A4）縦書きで、本人自筆による原本（障がい等による場合はワープロ可）とする。  
※異なるサイズの場合、A4サイズに書き直した原稿が必要となりますので、ご注意ください。
- ・ 応募された作品は、原則返却しないこととし、北海道に帰属するものとする。
- ・ 原稿の書き出しについては次のとおりとする。

4 行 目	3 行 目	2 行 目	1 行 目
～	作文	北海道	タイトル
	氏名	学校	学年

附則

- ・ この要領は、令和5年6月1日から施行する。

# 「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並び優秀賞受賞者名簿

年度	最優秀賞(北海道知事賞)		全国大会	優秀賞(北海道教育委員会教育長賞、北海道PTA連合会会長賞)			
	学校名	氏名		学校名	氏名	学校名	氏名
S54	利尻町立沓形中学校	池原 広文	出場 総務長官賞				
S55	根室市立光洋中学校	小林 優美	出場				
S56	様似町立様似中学校	川上美穂子					
S57	初山別村立豊岬中学校	高橋 未央	出場				
S58	鹿追町立鹿追中学校	最上佐緒里					
S59	厚沢部町立厚沢部中学校	後藤 晃					
S60	和寒町立和寒中学校	高岡 智扇		札幌市立手稲東中学校	庄田 香織	更別村立更別中央中学校	西川 朋憲
S61	小平町立達布中学校	紅屋 優		美唄市立美唄中学校	堀川 卓郎	稚内市立稚内南中学校	山崎 直美
S62	鶴川町立鶴川中学校	伊藤 奈美	出場	音更町立音更中学校	佐々木詩津子	和寒町立和寒中学校	岡本 百里
S63	砂川市立豊沼中学校	小林ますみ		増毛町立増毛第二中学校	上坂奈緒美	更別村立更別中央中学校	竹川 暢
H 1	江差町立江差中学校	中川 昌子		釧路市立鳥取西中学校	薄井 理砂	別海町立中西別中学校	白井 貴之
H 2	鹿追町立瓜幕中学校	高橋恵美子		旭川市立広陵中学校	三浦 愛子	初山別村立有明中学校	新田千佳子
H 3	稚内市立稚内東中学校	森田 淳		中札内村立中札内中学校	中西 志香	美幌町立美幌中学校	飯島 紀子
H 4	弟子屈町立弟子屈中学校	横川 心	出場 文部大臣賞	白老町立虎杖中学校	中村有希子	江別市立江北中学校	藤城 正興
H 5	生田原町立生田原中学校	仁木利沙子		浦河町立浦河第一中学校	高田 牧生	別海町立中西別中学校	林 美穂
H 6	生田原町立生田原中学校	前島 由衣	出場	旭川市立六合中学校	中村 沙織	余市町立西中学校	高山 仁美
H 7	幕別町立糠内中学校	中村 郁洋	出場	標茶町立磯分内中学校	岡崎奈未子	札幌市立新陵中学校	出林 裕佳
H 8	滝川市立明苑中学校	紺野友里子	出場	標茶町立磯分内中学校	藤本 智子	富良野市立山部中学校	寺井 正美
H 9	中標津町立広陵中学校	谷口 麻衣		七飯町立大中山中学校	竹安 玄太	苫前町立古丹別中学校	中嶋 卓広
H10	本別町立勇足中学校	岡本あすか		札幌市立北都中学校	野原 梓	天塩町立啓徳中学校	大岩奈々恵
H11	根室市立柏陵中学校	分部 史織		江差町立江差中学校	柴田 優	中富良野町立中富良野中学校	杉原 咲
H12	稚内市立宗谷中学校	熊谷 慶子	出場	釧路市立北中学校	大井里紗	北広島市立西部中学校	畠山 直子
H13	新冠町立新冠中学校	中村みなみ		虻田町立虻田中学校	佐々木千恵	猿払村立拓心中学校	藤井 美咲
H14	共和町立共和中学校	本間 絵美		釧路市立武佐中学校	佐藤くる美	恵山町立東光中学校	佐藤 亜未
H15	釧路市立美原中学校	佐藤 妃奈		岩見沢市立上幌向中学校	森谷 紀治	歌登町立志美宇丹中学校	渡辺のぞみ
H16	熊石町立熊石第二中学校	山脇 恭子		上富良野町立東中中学校	熊谷 佳苗	鶴居村立鶴居中学校	木村 友紀
H17	新十津川町立新十津川中学校	三吉 莉湖		歌登町立歌登中学校	金子 佳美	せたな町立大成中学校	正村 早紀
H18	北斗市立石別中学校	山田 亮一	出場	岩内町立岩内第一中学校	松山亜莉紗	枝幸町立志美宇丹中学校	渡辺ともみ
H19	枝幸町立志美宇丹中学校	渡辺ともみ		当別町立西当別中学校	萩原 有希	伊達市立長和中学校	本田 舞音
H20	岩内町立岩内第一中学校	熊野 遥華		幌延町立問寒別中学校	佐藤慎之介	池田町立池田中学校	新居 詩穂

# 「少年の主張」全道大会 歴代最優秀賞並び優秀賞受賞者名簿

年度	最優秀賞（北海道知事賞）		全国大会	優秀賞（北海道教育委員会教育長賞、北海道PTA連合会会長賞、北海道青少年育成協会会長賞 H22～）			
	学校名	氏名		学校名	氏名	学校名	氏名
H21	寿都町立寿都中学校	石王 凱騎		礼文町立香深中学校	中島佳奈子	千歳市立富丘中学校	中田 翔哉
H22	遠軽町立生田原中学校	阿部 愛		北海道教育大学付属釧路中学校	恒川 礼奈	増毛町立増毛中学校	加藤 修人
				帯広市立清川中学校	横山くるみ		
H23	別海町立中西別中学校	盛合 樹		苫前町立古丹別中学校	永井 星奈	釧路市立幣舞中学校	田名部あゆみ
				栗山町立栗山中学校	濱谷 珠美		
H24	猿払村立拓心中学校	熊谷 春奈		厚岸町立真龍中学校	山田 唯	札幌市立月寒中学校	安田 りな
				遠別町立遠別中学校	丸山 美月		
H25	帯広市立川西中学校	畠山 優輝		札幌市立平岡中央中学校	高野 大河	釧路市立鳥取西中学校	米内 真志
				江別市立江別第二中学校	最知なるみ		
H26	稚内市立稚内南中学校	熊谷 七海		釧路町立富原中学校	山岸 永和	帯広市立帯広第五中学校	深町 陽奈
				鷹栖町立鷹栖中学校	高木 倅凪		
H27	北海道教育大学附属札幌中学校	前田ほの香		千歳市立勇舞中学校	山田 萌未	帯広市立川西中学校	西野 侑未
				苫小牧市立緑陵中学校	吉岡 美月		
H28	白糖町立庶路中学校	松橋 愛美		豊富町立豊富中学校	伊藤 佑茉	標津町立標津中学校	上田 礼芽
				長沼町立長沼中学校	倉田 友美		
H29	白糖町立白糖中学校	阿部はるか		芦別市立啓成中学校	渡部 胡桃	旭川市立神居東中学校	若林 千夏
				新ひだか町立静内第三中学校	坂本 安侑子		
H30	洞爺湖町立洞爺中学校	毛利 郁也		厚岸町立真龍中学校	車塚花瑠香	岩見沢市立東光中学校	藤塚 麗瑠
				中標津町立広陵中学校	楓川 奈央	※美幌町立北中学校	田元 克
R01	登別明日中等教育学校	小路 藍花		帯広市立帯広第四中学校	吉田 千玲	北斗市立茂辺地中学校	房田 心玖
R03	洞爺湖町立洞爺中学校	吉野 真帆		厚岸町立真龍中学校	伊藤 琉希	美幌町立北中学校	中山 芽依
				和寒町立和寒中学校	佐藤 莉子		
R04	江別市立大麻東中学校	金 美怜	出場	中標津町立中標津中学校	藤浪 あい	長沼町立長沼中学校	岸 楓珂
				厚沢部町立厚沢部中学校	細畑 綾香		

※R 2=新型コロナウイルス感染症の影響により、「少年の主張」事業を中止

※H30=北海道150年記念 特別賞

毎月  
第3  
日曜日

ほーんわか、ほーっとする日。

# 道民家庭の日

「道民家庭の日」は  
家族みんなでふれあい、  
団らんする日です

家族そろって食事をしたり、  
家族が団らんする機会を持ちましょう。

家族ふれあい協賛店・  
施設を利用しよう!

毎月第3日曜日に子どもを連れた  
家族が、料金の割引などのサービス  
を受けることができます。

※優待券(コピー可能)の提出が必要です。  
ホームページから取得できます。

「道民家庭の日」  
イメージキャラクター  
ほーほーくん

ホームページ  
はこちらから



LINE  
はこちらから



令和5年度

「少年の主張」全道大会発表作品集

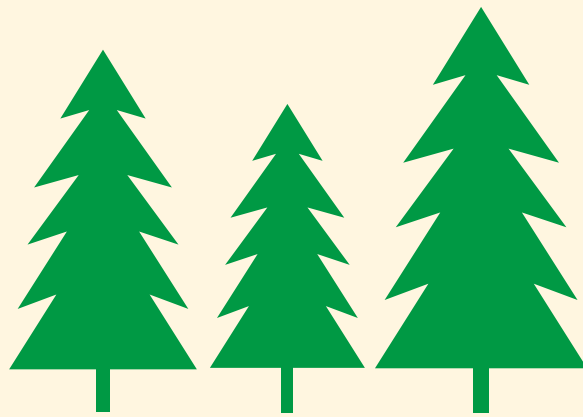
発行 公益財団法人北海道青少年育成協会

〒060-0005

札幌市中央区北5条西6丁目1番地23 第二道通ビル  
TEL (011) 231-6451 FAX (011) 231-6457  
URL <http://www.ikuseikyo.jp/>  
E-mail [youth@ikuseikyo.jp](mailto:youth@ikuseikyo.jp)

北の大地に輝け 君の青春

# 北海道 青少年基金



伸びよう 伸ばそう 青少年

北海道青少年基金にご協力を

🌲 北海道青少年基金は、北海道110年記念事業として、21世紀の北海道の担い手となる若者たちが積極的に社会に参加し、連帯の輪を広げていくことを願って創設されたものです。

🌲 この基金は、青少年の社会貢献活動、文化活動、グループ活動を支援、助長するために活用されます。

🌲 北の大地に躍動する若い力を応援するため、皆様のご協力をお願いいたします。